

「ミライのハナ」と一面の植物でお出迎え

サカタグループ、GREEN×EXPO 2027 で庭園や特設館など計5つの展示を展開



株式会社サカタのタネ（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：加々美勉、以下、サカタのタネ）は、2027年3月19日に開幕する2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）における当社グループの展示詳細を特設サイトで公開しました。「ミライのハナ」（＝写真左＝）を中心とした季節の花々が彩る花壇と、植物のイラストを一面にあしらった特設館（＝写真右＝）が来場者を迎える予定です。当社グループはこれらを加えた計5つの展示を行います。

「ミライのハナ」は、サカタのタネの庭園「百花菜覧」の中央に設置するオブジェで、この世にまだ存在しない花として表現しています。花の色は、空や海の広がりを感じさせる濃縹（こきはなだ）色と、生命の息吹きをイメージした萌黄（もえぎ）色で彩ります。花の模様は日本の伝統技法である金継ぎから着想を得ており、異なる文化や価値観、知恵や技術が重なり合う様子をイメージしています。「ミライのハナ」を設置する庭園「百花菜覧」では、当社が開発した約160品種の花と約20品種の野菜を中心に展示します。

サカタのタネの特設館「旅するタネと私」では、見る、聞く、触れる、香るといった体験を通してタネの世界を身近に感じていただける展示を行います。館内では、植物のタネの実物展示や一粒のタネから広がる未来をストーリー形式でまとめたおよそ3分の映像展示、種苗会社の仕事の一端を体験できるコンテンツのほか、実際に花や野菜のタネに触れ、手触りや香りをお楽しみいただける展示、当社がつくるタネと未来について紹介するパネル展示などを行います。私たちの暮らしに身近でありながら、普段は意識する機会の少ないタネの多様性や、タネと暮らしとのつながりについて知っていただける内容としています。

花と野菜の品種開発、種苗の生産、販売から造園緑花事業までを手がける当社グループならではの知見を生かし、GREEN×EXPO 2027への出展を通じて、タネの魅力や可能性、植物が暮らしや社会にもたらす価値を発信するとともに、植物と共にある未来を考えるきっかけを提供します。

- 株式会社 サカタのタネ 〒224-0041 横浜市都筑区仲町台 2-7-1
- <https://corporate.sakataseed.co.jp>

【報道用参考資料】

■サカタグループ 5つの展示概要

サカタのタネ 屋外出展

特設館「旅するタネと私」

見る、聞く、触れる、香るといった体験を通してタネの不思議さや生命力を感じていただける体験型の展示です。タネの実物展示や種苗会社の仕事体験コーナーを通じて、タネが長い年月をかけて獲得してきた生き抜くための工夫や、タネが世界に届けられるまでの歩みを知ることができます。



サカタのタネ 屋外出展

庭園展示「百花菜覧」

横浜の空や海をイメージさせる青系を基調とした花壇や、中央のオブジェ「ミライのハナ」を取り囲むように季節の花々が彩る花壇、和風モダンな花壇のほか、野菜・ハーブ・草花などを一緒に植えたポタジェなどを展示します。当社が開発した花や野菜の品種を中心とした植栽で、季節ごとの彩りを楽しめる空間を創出します。



サカタのタネ 屋内出展（短期間・5月）

「幸せの丘・ファームテーブル」

カンパニユラをメインに使用し、花の丘とファームテーブルを組み合わせた空間を創出します。花を愛でながら食を楽しむ、そんな幸せな暮らしのワンシーンを表現します。



サカタのタネ 屋内出展（短期間・7月）

「花と夢なる木・花の咲く小径」

樹木と色や形の異なるトルコギキョウを使用した展示です。サカタのタネが長年積み重ねてきた育種技術により生み出された、多様で美しい花々を体感しながら、花が持つ無限の可能性に触れていただける展示です。



サカタのタネ グリーンサービス 屋外出展

庭園展示「自然と溶け合う理想の暮らし」

ビオトープの川の流れに沿って、彩り豊かな宿根草や一年草による鮮やかな景観から、樹木や山野草など外来種を多く取り入れたナチュラルな景観へと、なだらかに移り変わる展示です。人の暮らしに寄り添う空間と、植物やビオトープを生かした景観を通じて、「自然」と「暮らし」が溶け合う新たな理想の暮らしを提案します。

